

フェースシールド



熱がこもらないため、業のバック・ロード（岡飛沫を防止しつつ暑さ 山市南区藤田）は、顎の対策にもなるフェース形に沿って口と鼻部分いう。印刷や紙加工を中心にガードする樹ら。

口鼻防護、紙組み立て

工場からの引き合いが多いバック・ロードのシールド

脂製のシールドを開発した。工場で働く人ら向けで、作業帽のつばにクリップで取り付ける。顔全体を覆

眼鏡に取り付けるタイプなどもある。中桐英策社長は「マスクをして話す」と喉の渇きを感じ

1枚30円程度からと価でも、お面を着けるような感覚で楽しんで予防してほしい」とアピールす

北原産業は子ども向けに組み立て式をアピールする



は、食品容器製造の北原産業（倉敷市）は、このほか、丸善（笠岡市山口）は自社で製造する食品容器と同じ樹脂素材を使ったシールドを製造。自動車部品メーカー（府中市鶴飼町）など府中、福山市の4社は、美容院の利用者向けに首に掛けるタイプを共同開発している。

（良田桃子）

九州豪雨

現地工場を休業

岡山県内企業 支援物資準備も

熊本県など九州を襲った豪雨で、現地に拠点を展開する岡山県内の企業は6日、工場を休業したり、店舗の営業終了を早めたりと対応に追われた。ブルーシートをはじめとする支援物資の製造業者は、被災地に発送する準備を進めている。（1面関連）

学生服大手の菅公学生服（岡山市）は、宮崎、鹿児島県の縫製工場8拠点を休業にした。工場に被害はなかったが、周辺道路が冠水しているとの情報があり、従業員の安全を最優先した。同社は引き続き情報収集に努

め、今後の対応を考えた」としている。九州にグループ42店を持つ菓子製造販売・源吉兆庵ホールディングス（同）は、福岡県久留米市の店舗の閉店を通常の午後7時から4時半に切り上げ、従業員を帰宅させた。鹿児島県の店舗では高速道路の通行止めで商品到着が遅れる影響も出ており、別ルートで配送している。

コンベエ向け冷蔵食品製造のわかば食品（倉敷市）は、熊本工場（熊本市）の従業員50人の無事を確認。野菜など材料の一部は地元農家から仕入れてお

り、「被害が広がらないか心配」とする。被災地支援に向けた動きも相次いでいる。

食品容器製造の北原産業（倉敷市）は、コロナ禍での避難を考慮して、フェースシールド7千枚とパーティション2千枚を熊本県の被災地2カ所へ発送。自動車部品メーカーの内山工業（岡山市）も

自社製のマスク、フェースシールド、簡易ペナードの提供を同県の災害対策本部に申し出した。合成樹脂製品製造の萩原工業（倉敷市）は、販売代理店を通じた九州からの土のう袋やブルーシートの注文が通常の5〜10倍に増加。今のところ国や自治体から協力要請はないが、「少しでも早く応えられるよう柔軟に対応していく」という。

（伊東圭一、大江恵里奈、良田桃子）